




# JCOMM *news*

日本モビリティ・マネジメント会議ニューズレター

## 第14回日本モビリティ・マネジメント会議開催のお知らせ

第14回日本モビリティ・マネジメント会議は、2019年7月19日・20日に石川県金沢市「石川県立音楽堂」にて開催されます。

金沢市は、長期にわたって関係機関が連携した交通・まちづくりを展開しており、さらに、2015年の北陸新幹線の開業によって、大きな発展を遂げています。また、北陸地方でのJCOMM開催は2012年の富山大会以来の7年ぶりの開催となりますので、これまでに参加した方はもとより、近隣でMMに取り組む皆さまにも是非、ご参加いただきたく思っております。

 次回開催地の観光名所をちょっとだけご紹介!

主計町茶屋街・金沢市

主計町と書いて「かすえまち」と読みます。このあたりに加賀藩士・富田主計(とだかすえ)の屋敷があったことから名付けられました。JCOMM会場の音楽堂からは約2km!金沢のまちを歩きながら、純和風の風情を感じるのはいかがでしょうか。



### 第14回日本モビリティ・マネジメント会議の発表及び参加申し込みのご案内

- 主催：一般社団法人 日本モビリティ・マネジメント会議
- 共催(予定)：(株)計画情報研究所・(株)日本海コンサルタント・(公社)土木学会
- 後援(予定)：国土交通省、ほか
- 会場：石川県金沢市 石川県立音楽堂  
(石川県金沢市昭和町20-1 [金沢駅兼六園口])
- 日時：2019年7月19日(金)・20日(土)  
※プログラム概要は、詳細が決まり次第第HPで公開いたします

■発表申し込み [締切:2019年4月15日(月)]

申し込み費用：無料  
JCOMM公式サイトより申し込みください

■参加申し込み [締切:2019年6月30日(日)]

参加費(資料代含む)：3,000円 ※個人会員無料  
JCOMM公式サイトより申し込みください

※JCOMM開催時期の金沢市は観光客が非常に多く、宿泊場所の確保が困難になることが予想されます。お早めにご予約をお願いいたします。

## 2019年度JCOMM賞候補募集について

2019年度も他地域の模範となるような、効果的なMMプロジェクトを表彰するJCOMM賞の公募を行います。昨年度同様、マネジメント賞、デザイン賞、技術賞、プロジェクト賞と合わせて4つの部門で公募・審査を行います。自薦・他薦を問いませんので、奮ってご応募ください。

### 【JCOMM賞の主旨】

国内の様々なモビリティ・マネジメントについての様々な取り組みや研究の中でも、特に優秀な取り組みや研究をJCOMM実行委員会として選定し、その実現に貢献した個人あるいは団体を表彰します。これを通じて、モビリティ・マネジメントの「実務発展」と「技術発展」を期待します。

### 【各賞の概要】

#### ● マネジメント賞

モビリティ・マネジメントにおける実務的な「一連の持続的マネジメント」の中でも、とりわけ、都市・地域のモビリティの質的改善や渋滞・環境問題、公衆の健康増進問題や都市構造問題などの交通に関連する諸問題の解消に向けて、効果的に推進されている一連の持続的マネジメントについて、個人(複数可)あるいは団体(複数可)を対象として授与する。

#### ● デザイン賞

モビリティ・マネジメントにおける実務的なプロジェクトにおいて実際に使用されたマップ、リーフレットフォルダー、アンケート票等の各種ツールの中でも、とりわけ秀逸なデザインがなされた一個、ないしは、一群のツールについて個人(複数可)あるいは団体(複数可)を対象として授与する。

#### ● 技術賞

モビリティ・マネジメント実務に資する技術の発展に、顕著な貢献をなした「研究業績」について個人(複数可)を対象として授与する。

#### ● プロジェクト賞

モビリティ・マネジメントの一連の取り組みの中で実施された「実務的な一プロジェクト」の中でも、とりわけ、都市・地域のモビリティの質的改善や渋滞・環境問題、公衆の健康増進問題や都市交通問題などの交通に関連する諸問題の緩和に実際に大きな貢献をなしたプロジェクト、あるいは、そうした諸問題の抜本的緩和に繋がらうる新規性を持つプロジェクトについて個人(複数可)あるいは団体(複数可)を対象として授与する。

### 応募方法

他薦あるいは自薦とし、別に定める推薦書1部に当該業績の関連資料1部(論文報告書[複数種可]、ツール一式等)を添付して、郵送あるいはE-mailにて下記JCOMM賞事務局宛に提出して下さい(ツール等については、現物の郵送をお願いします)。推薦書はJCOMMホームページよりダウンロードして下さい。

■選考と表彰：JCOMM実行委員会において選考し、第14回JCOMMにおいて表彰します。

■応募期限：2019年4月15日(月)【必着】

■提出先(応募に関する問合せ先)

〒604-8223 京都市中京区新町通四条上ル小結棚町428 新町アイエスビル4F (社)システム科学研究所内  
JCOMM賞事務局(担当:東・山口) 電話:075-221-3022 FAX:075-231-4404 e-mail: jcomm@issr-kyoto.or.jp

■様式：JCOMMホームページよりダウンロードして下さい。

# 子どもたちとともに、社会における障害と向き合う MM教育へ

名古屋大学大学院環境学研究科附属  
持続的発展教育研究センター 研究員 大野 悠貴

公共交通の利用促進策として、子どもたちを対象とした乗り方教室や「出前講座」は代表的ですが、知的障害のある子どもたちに向けて行うことは少ないのが現状です。

青森県弘前市では、地元バス事業者の弘南バス株式会社と弘前大学教育学部附属特別支援学校中部にて、知的障害のある子どもたちに向けたMMに2016年度から取り組んできました。

その中で、バスの利用方法やマナーをストーリー仕立てで紹介する紙芝居を作成しました。学習目標の一つであるマナーの部分では「運動」を探り入れ、子どもたちが〇×クイズの正解を身体で表現したり、席を立てて正解と思う方に自分の顔写真を貼ってもらったりすることで、「学び」の定着を図っています。

2年目、3年目の子どもたちは、バスだけでなく電車の利用方法やマナーも学習したり、より実践的に時刻や運賃の調べ方を学んだり、子どもたちの障害の状態や特性を踏まえながら学習目標と内容を設定し、段階的に「学び」をステップアップさせていきます。

しかし、一度きりの座学で「学び」を定着させることは不可能です。座学を行った翌日には実践としてバスや電車を使った校外学習を行ったり、事前学習や事後の振り返りの時間を設けるなど、学校側の協力を得ながら「授業の積み重ね」も行ってきました。

3年間の取り組みの中で、ある生徒の保護者は子どもにバスを利用して一人で買い物に行く練習をさせた



出前講座の様子

り、3年生の生徒から中学部での思い出として卒業式でMM教育のことを発表したいという提案があり、実際に発表したというエピソードがあるなど、バスに対する意識の変化が見られました。

MM教育の実施側にとっても、知的障害のある子どもたちとの接し方や障害の特性など学ぶことが多くありました。

知的障害のある子どもたちが公共交通利用でできるようになることは、彼らの移動手段の選択肢を増やし、学習指導要領にある「自立の一助となること」は間違いありません。加えて「障害はご本人自身にあるのではなく社会の側にあり、障害者とは「社会にある障害と向き合っている人たち」に捉えるならば、特別支援学校でのMM教育は、子どもたちが社会にある障害と向き合うときの支えとなるだけでなく、私たち大人が社会にある障害を認識し、多様性を認め、私たちにインクルーシブ社会の実現への気付きを与えてくれる機会でもあるのです。



## 公共交通を乗り継いでまちを探検 のりものフォトログ in 札幌

札幌市まちづくり政策局 総合交通計画部 都市交通課 佐藤 格郎

「路線バスとか地下鉄にもっと乗ってくださいよって言うだけじゃなくてさ。実際に乗って楽しんでもらえるものって、何か無いのかな」

「うーん。昔のJCOMM会議で、「ロゲなんか」とかってイベントをやったという発表を見た気がするんですけどね」

「ロゲ、何それ？」

始まりは2016年の秋、職場でのこんな取り留めのない雑談でした。調べてみると、2014年度帯広でのJCOMM会議で、広島県様と(株)バイタルリード様から「公共交通、乗換検索システムの利用促進のゲームアプリケーション」全国初、複数の公共交通機関の利用を前提とした「ロゲインング」と題する「ロゲ発表が行われていました。

「ロゲインング」。聞き慣れない単語かも知れませんが、これは地図を元に、体力・作戦・読解力を駆使してより多くのチェックポイントを効率良く時間内にまわり、得点を集めるチーム対抗のスポーツです。チェックポイントに到達した記録として、デジカメやスマホで写真撮影するので「フォトロゲインング」と略して「フォトロゲ」と呼ばれたりします。本来はフィールドを駆け抜けるスポーツなのですが、特別ルールとして、公共交通を上手に乗り継いでチェックポイントをまわるイベントとしたというのが、広島市の事例でした。

折しも札幌市では2017年4月から乗換検索サイト「さっぽろえきバスのナビ」をリニューアルし、スマホ向けのアプリもリリースするところ。このアプリの利用促進をしていかねばならぬという時期でしたので、この取組って面白いんじゃないかと、早速広島県のご担当者様に連絡を取り、現地でヒアリングまでさせていただきました。

その際のご協力もあり、2017年に「のりものフォトログ in 札幌」を初開催することが



イベントの様子



きました。2018年9月にも2回目を開催し、約120名の方に参加いただきました。

チェックポイントには、札幌時計台、クラーク像など観光地の他、開拓の歴史を感じられるスポットや、札幌市民であっても知らないマニアックな場所等を設定。さっぽろえきバスのナビで経路検索をして、公共交通を乗り継ぎながら、札幌のまち歩きも楽しめるような工夫をしました。

結果、9割を超える参加者から「参加して良かった」というアンケート回答をいただき、また「公共交通の利便性が実感できて有意義だった」「普段しない乗継が楽しかった」など、うれしい意見もいただきました。また、「公共交通モードに使用できる共通一日券が欲しい」などのご要望があることも確認できました。

2019年も、第3回目のフォトログを9月に開催するべく、準備を進めております。このニューズレターをお読みの皆様方におかれましては、ぜひ初秋の札幌への遠征をご検討いただくと幸いです。

### 編集後記

残り、約1ヵ月で「平成」の時代が終わろうとしています。MMは平成の時代に始まった、交通施策、取組みであります。新しい元号の時代においても、更なる発展や新しい取組みが図られることを楽しみにしています。次回、金沢でのJCOMMでみなさまとお会いし、発展的なご議論をさせていただけることを楽しみにしております。

(一社)北海道開発技術センター 大井 元揮